

福祉フォーラム20周年記念シンポジウム

『自分たちでつくる福祉
～雇われない働き方と地域社会～』を開催

龍谷大学福祉フォーラムは20周年を迎えました。この節目に「これからの福祉」を考えるシンポジウムを開催しました。

本シンポジウムでは福祉×地域×仕事の3つのキーワードをもとに議論を行いました。仕事というと、私たちは雇用をまっさきに考えますが、本シンポジウムの講演では「雇われない働き方」のあり方について滋賀県内の事例も踏まえながら紹介していただきました。「雇われない働き方」に関連の深いこととして、法制化の議論が活発に続いている「労働者協同組合」は、福祉の分野でも十分に認知されているとはいえません。

今回のシンポジウムでは、ワーカーズコープ（労働者協同組合）連合会事務局長の高成田 健 氏、滋賀地方自治研究センター理事の中西 大輔 氏に講演をいただき、その後、質疑も受けつつパネルディスカッションを行いました。

（龍谷大学社会学部准教授 笠井 賢紀）



福祉フォーラム会員募集

福祉フォーラムは会員制の組織です。参加ご希望の方はご入会をお願いいたします。

●年度会費：2,050円（2019年4月～2020年3月31まで）

会員特典

1. フォーラム事業（講座、フォーラム等）に会員割引にて参加できます。
2. 本学教員と協力して、新しい研究会の企画や運営に関わることができます。
3. 福祉フォーラムの各種事業案内をお送りいたします。
4. 福祉フォーラム通信をお送りいたします。
5. 龍谷大学図書館（深草・大宮・瀬田）を利用できます。

〔図書館の利用には、図書館利用カード（RINSカード）が必要です〕

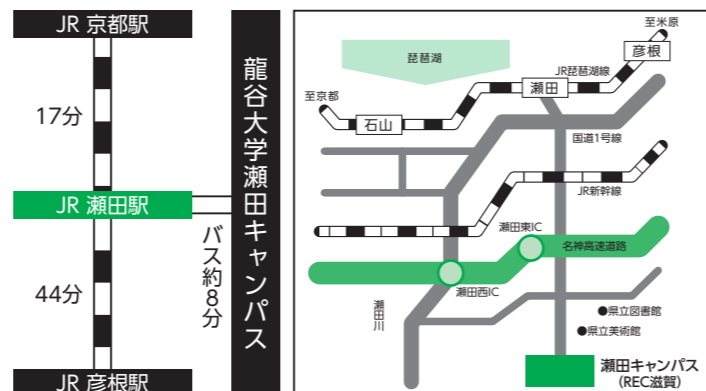
※入会ご希望の方は事務局（電話077-544-7291）にご連絡ください。

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局（REC 滋賀）

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5
Tel 077-544-7291 Fax 077-543-7771
E-mail r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp
ホームページ <https://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車
帝産バス「龍谷大学」行き（約8分）
名神高速「瀬田西 IC」（大阪方面から）
「瀬田東 IC」（名古屋方面から）より
文化ゾーン方向へ車で約5分【駐車場有】
※駐車台数に限りがあります。



福祉フォーラム通信



福祉フォーラム2018

『孤立と支え つながりは回復する』を開催

日時：2018年12月8日(土) 13:30～16:00

会場：龍谷大学瀬田キャンパス 8号館101教室

講演者・コメンテーター：鈴木 大介 氏（文筆家）

シンポジスト：杉山 真智子 氏（NPO法人 四つ葉のクローバー 理事長）

桐高 とよみ 氏（NPO法人 甲賀・湖南成年後見センターぱんじー所長）

文筆家の鈴木 大介さんは、貧困や虐待など厳しい環境に置かれている女性や子ども、若者に対する熱心な取材を元にした書籍を数多く上梓されてきましたが、自らも脳梗塞を発症され、自らがさまざまなハンディを抱える立場に置かれるました。2018年度の福祉フォーラムを企画するにあたり、このような経験をされてきた鈴木さんから、孤立していく人達のこと、そしてそれを支えることについてお話しを伺いたいと考えました。

当日は、鈴木さんのご希望で、私との対談形式で進行了。あらかじめお伝えして置いた質問にお答えいただきながら、これまでの取材と自らの状況をふまえて支えのあり方についてお話しをいただきました。特に自身のパニック状態への対処を努力ではなく、工夫とおっしゃっていたことが印象に残っています。一方的な支援の提供ではなく、当事者へのていねいな理解とその思いや

力を大切にした支援の重要性に気づかされました。

同時に、県内に若者支援を行う「四つ葉のクローバー」の杉山さん、地域で権利擁護活動に携わる「甲賀湖南成年後見センターぱんじー」の桐高からも報告があり、鈴木さんからコメントをいただきました。支援者とは異なる価値観を持たざるを得なかった「大事にされてこなかった人達」が私たちの社会にはたくさんいること、そして気づきと小さな関わりが展望を開いていくことを深く学び得た機会となりました。

（龍谷大学社会学部教授 山田 容）



（参加者の声）

- ★理解しているつもりでも理解できていないことがまだまだたくさんあり、どんな時も深く考えることが大切だと改めて感じました。
- ★高次脳機能障害の方が抱える課題はよくわからなかったが、鈴木さんのお話を聞くことで少し理解することが出来ました。
- ★高次脳機能障害当事者の“苦しさ”、“つらさ”や言葉としての“パニック”が意味を持って伝わってきた。

第16回共生塾

『農福連携と地域社会との共生』を開催

日 時：2019年2月2日(土) 13:20～16:30
 会 場：龍谷大学瀬田キャンパス 6号館プレゼンテーション室
 基調講演：林 正剛氏 (NPO法人HUB'S 理事長)
 パネリスト：林 正剛氏
 杉田 健一氏 (特定非営利活動法人 縁活 代表)
 明見 美代子氏 (農業生産法人ポニーの里ファーム取締役)

2月2日(土)、龍谷大学福祉フォーラムでは、第16回共生塾『農福連携と地域社会との共生』を本学瀬田学舎6号館で開催しました。

第一部では、NPO法人HUB'S理事長の林 正剛氏をお招きし、「農福連携と地域社会とお共生」をテーマに講演をしていただきました。林氏はまず、農業と障がい者福祉の現状について述べられ、農業の後継者不足や耕作放棄地が増加していることや障がい者の働く場が少ないことなどを紹介された。また、続いて農福連携の現状について縦割りの壁があり、問題があることを指摘され、最後に地域社会との共生に向けて、障害者施設が農家から農地を借りて農業をししたりする事例など、今後

の連携について提案された。

第二部では本学准教授 坂本 清彦氏が進行役となり、パネルディスカッションを行いました。パネリストとして林氏とNPO法人縁活代表の杉田 健一氏と農業生産法人ポニーの里ファーム取締役の明見 美代子氏に登壇いただきました。林氏は障がい者が生産した農作物をマルシェで販売したり、障がい者施設で加工品を作る事例を紹介していただきました。杉田氏は就労継続支援B型事業の実例として「おもや」の農作や加工作業について話されました。明見氏からは、地域の特産を活用した6次産業化とまちづくり活動への参画について話していただきました。

今後の展開を考えられている参加者の方から、課題解決の助言が求められ、パネリストの方々から具体的なアドバイスをいただいたり、参加者同士の新たな交流ができ、良い学びの機会となりました。

(龍谷大学社会学部教授 久保 和之)



(参加者の声)

- ★農福連携という農業と福祉の、表面的には関係のないような二つですがそれぞれの抱える問題を解決できることがあるのは、とても社会に良い影響を与えてくれるものだと感じた。
- ★地域の活性化、福祉の推進のためには、農福だけでなく、これまでなかった「つながり」を増やしていくこと、とても大切だと感じた。

第20回専門セミナー

『各市町家庭児童相談室・県子ども家庭相談センター共同研修～語りから未来を紡ぐ～』を開催

日 時：2019年2月15日(金) 14:00～17:00
 会 場：龍谷大学瀬田キャンパス 6号館プレゼンテーション室

第20回専門セミナー「各市町家庭児童相談室・県子ども家庭相談センター共同研修～語りから未来を紡ぐ～」を瀬田キャンパス6号館にて開催しました。

滋賀県の市町家庭児童相談員および児童相談所職員がこれまでの自分の経緯を振り返り、お互いに聞き取りを行うことによって、それぞれの機関による支援を肯定的に捉える機会となるようセミナーを開催しました。本研修に児童福祉の支援者である市町の家庭児童相談員および児童相談所職

員が参加されました。

セミナーの参加者からは、「県家児相は福祉事務所のメンバーと一緒に仕事をする機会が少なく、孤独を感じる事が多いです。グループワークが出来て、とてもうれしかったです。」「日常の業務を離れ、又仕事内容は同じでもそれぞれの持つ個性と発想の豊かさに気付かされました。」などの感想をいただきました。

(龍谷大学社会学部准教授 笠井 賢紀)

第21回専門セミナー

『社会調査を理解する～社会について「正しく」知るために～』を開催

日 時：2019年3月2日(土) 10:00～15:45
 会 場：龍谷大学瀬田キャンパス REC211教室
 講 師：猪瀬 優理 (龍谷大学社会学部准教授)
 三谷 はるよ (龍谷大学社会学部講師)

「社会調査の経験がない人に、その「入口」として基本的な知識と方法を伝えること」「社会調査を行う場合に最低限、押さえておくべきポイントについて伝えること」「受講者が実際に社会調査を行うとした際に、参照できる情報元を提供すること」の3点を主な目的として、社会調査の基礎を伝える専門セミナーを開催いたしました。

業務上、「事業評価」や「ニーズ把握」を必要としているが、社会調査の手法を学んだことがなく、学ぶ必要があると感じている方々を主な受講者と

想定したセミナーでした。

1時間目(午前)は「社会調査とは何か」と題して、猪瀬が担当しました。調査票調査のための質問を考えるというワークがメインでした。

2時間目(午後)は「調査票調査の方法」と題して、三谷 はるよ先生に午前のワークで作成していただいた質問の講評をしていただいた後、調査票調査を実施する際の注意点や手順など手際よく教えていただきました。

(龍谷大学社会学部准教授 猪瀬 優理)